

令和 3 年 6 月 10 日現在

機関番号：12608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K03050

研究課題名(和文) 将軍側近と幕府官僚の関係に見る徳川幕府の政治権力

研究課題名(英文) Political power of the Tokugawa Shogunate in the relationship between The Shogun Sokkin(shogunal intimates) and shogunate bureaucrats.

研究代表者

福留 真紀 (FUKUTOME, Maki)

東京工業大学・リベラルアーツ研究教育院・准教授

研究者番号：60549517

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、徳川幕府の政治権力の本質を、将軍側近と幕府官僚の関わりから分析したものである。江戸時代後期の側近、特に10代将軍家治政権期に将軍側近と老中を兼任した水野忠友、11代家斉政権期の水野忠成に注目し、その実態を多角的に明らかにした。また、これまで行ってきた前・中期の分析を深め、その成果と統合することにより、江戸時代全体を通して将軍側近と幕府官僚の関係からみた政治権力・政治構造を総括することを試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

江戸時代後期の代表的側近で、幕府官僚である老中も兼ねた水野忠友・忠成には、本人や身近な家臣の書いたものを含む一次史料が数多く存在する。本研究では、これらを組み合わせ、政治構造の基盤であるそれぞれの間人関係や人間関係から、当時の政治世界を多角的に分析し、政治権力の本質に迫った。加えて、前・中期の研究と統合することで、江戸時代全体を「将軍側近」という切り口で見通すことになり、幕府政治史の体系的理解に繋がった。このアプローチは、社会史・文化史・都市史など、あらゆる角度からの江戸時代分析と組み合わせることにより「江戸時代をどのようにとらえるか」という大きなテーマに対する、答えを導き出すことにも繋がる。

研究成果の概要(英文)：This study analyzes the essence of the political power of the Tokugawa Shogunate from the relationship between The Shogun Sokkin and shogunate bureaucrats.

The reality of The Shogun Sokkin in the latter half of the Edo period is clearly revealed from various angles. Among them, particular focus was given to Tadatomo Mizuno, who concurrently served as The Shogun Sokkin and Roju(senior counselors) during the 10th Shogun Ieharu administration, and Tadaakira Mizuno during the 11th Ienari administration. In addition, by deepening the analysis of the early and middle Edo period conducted so far and integrating it with the results, summary of the political power and political structure throughout the Edo period was constructed from the viewpoint of the relationship between The Shogun Sokkin(shogunal intimates) and shogunate bureaucrats.

研究分野：日本近世政治史

キーワード：徳川幕府 徳川将軍 幕府官僚 将軍側近 柳沢吉保 酒井雅楽頭家 水野忠友 水野忠成

1. 研究開始当初の背景

従来の徳川幕府の政治史研究は、幕府により系統立てて整理された幕府日記や各種法令集などを分析の対象とすることが多かった。そのため、政策や制度の建前や結論部分しか明らかに出来ず、結果として「表向」の政治史を描くことになり、制度・組織といった構造論的分析に終始する傾向にあった。

それに対して私は、政治の主体・基盤である「人」に注目し、将軍との人間関係を基盤とする「将軍側近」という切り口から、研究を進めてきた。政治に関わる者の個人事情、家族・姻戚関係という側面から、より政治権力の本質に近づくことができると考えたからである。

そのような視点からの研究成果として、研究開始当初には4冊の著書を刊行していた。

1冊目が、『徳川将軍側近の研究』(校倉書房、2006年)であり、5代綱吉から8代吉宗までの時期を中心に、将軍側近の幕府政治機構の中での位置を明らかにした。綱吉・家宣・吉宗は、前将軍の嫡子ではないため、4代家綱政権に確立した幕府政治機構の中で、政治的手腕を発揮するために側近が必要となるという、共通した背景があり、それが、綱吉から家継までは「側用人」、吉宗では「御側御用取次」である。当該期の将軍側近は、「側用人」「御側御用取次」という「役職」に任命されていたのではなく、将軍との人間的繋がりから成り立っており、その権限は、あくまでも「奥向」と「裏(=根回しの政治構造)」に限られ、老中等の幕府官僚とは「裏」では共存したが、「表向」で発揮されることはなかった。

この研究から見出された「裏」には、大名・旗本の人間関係が強く反映され、その本質を解明したのが『名門譜代大名・酒井忠孝の奮闘』(角川学芸出版、2009年)である。前橋藩主酒井忠孝は4代家綱の大老忠清の嫡男であるが、父が綱吉政権で事実上失脚したため、家格を下げることになる。よって、再び幕府中枢で働くためには、幕府への働き掛けが必要となった。加えて、一門の長として、親族や交流のある大名・旗本から幕府への取り次ぎ役として頼られる立場でもあった。その忠孝の人的ネットワークの中に、柳沢吉保との婚姻関係があった。忠孝は吉保に、酒井家や交流のある大名・旗本の家格維持や復活の指南を受け、また、吉保を通して綱吉政権への提言を行う一方、吉保には、姻戚関係を結ぶことで、新興大名柳沢家に箔を付けるという、双方向の利点があった。

ほかに、側近の人物像を掘り下げる研究も進め、『将軍側近 柳沢吉保 - いかにして悪名はつくられたか』(新潮社、2011年)では、文芸作品の中で典型的な悪役として描かれる吉保の実像と、悪役イメージが生み出された構造を、多角的に解明した。6代家宣から8代吉宗の時代については、『将軍と側近 - 室鳩巢の手紙をよむ』(新潮社、2014年)で、将軍との人間関係を基盤とし、将軍が替われば政治の表舞台を去る性質を持つ「将軍側近」と、政権が変わろうとも幕府官僚として役職のトップに居続ける「老中」のせめぎ合いから、幕府政治の本質に迫った。

2. 研究の目的

徳川幕府の政治権力の本質を、将軍側近と幕府官僚の関わりから明らかにすることを目的とした。具体的には、江戸時代後期(9代将軍徳川家重政権以降)の側近について、その実態を幕府官僚との関係を中心に明らかにすること。加えて、これまで、江戸時代前・中期を中心に進めてきた将軍側近研究の成果と統合することにより、将軍側近研究の集大成をめざした。

3. 研究の方法

江戸時代後期の将軍側近と幕府官僚の関係を分析するため、各地で幕府・老中・大名・将軍側近関係史料の調査を行った。得られた成果は、著書、研究論文、研究会報告により発表した。

年度ごとの史料調査の内容は、以下の通りである。

(1)平成28(2016)年度

幕府関係史料

老中日記類の調査

首都大学東京図書館センター(東京都)

「老中借写日記」

松平乗賢日記、松平武元日記、西尾忠尚日記、板倉勝静日記、松平康福日記、松平康任日記、安藤信成日記、牧野貞長日記、阿部正倫日記、久世広明日記、松平輝延日記、酒井忠進日記、青山忠裕日記、牧野忠精日記、松平信明日記、土井利厚日記、阿部正精日記、大久保忠真日記、水野忠成日記、戸田氏教日記、松平乗寛日記、久世広周日記

真田宝物館(長野県)、豊橋市美術博物館(愛知県)

大名家史料

酒井雅楽頭家関係史料

前橋市立図書館（群馬県）・姫路市立城郭研究室（兵庫県）

将軍側近関係史料

水野家関係史料

沼津市明治史料館（静岡県）・九重みりん時代館（愛知県）

「水野家記録」（早稲田大学図書館所蔵）

「水野忠友側日記」「水野忠成側日記」（東京大学史料編纂所所蔵）

加えて、「よしの冊子」（水野為永著・森銑三ほか編『随筆百花苑』8・9巻、中央公論社、1980・81年）、「宇下人言」（松平定信著・松平定光校訂『宇下人言・修行録』岩波書店、1942年）、「公德弁」（塩谷宕蔭著・北島正元校訂『丕揚録・公德弁・藩秘録』近藤出版社、1971年）山田三川著・小出昌洋編『想古録』（平凡社、1997年）の分析も進めた（～令和2年度）。

（2）平成29（2017）年度

大名家史料

酒井雅楽頭家関係史料

前橋市立図書館（群馬県）

将軍側近関係史料

松平信明関係史料

豊橋市美術博物館（愛知県）

○柳沢家関係史料

公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会（奈良県）

水野家関係史料

「水野家記録」（早稲田大学図書館所蔵）

「水野忠友側日記」「水野忠成側日記」（東京大学史料編纂所所蔵）

岡谷繁実「星岡史話」（東京大学史料編纂所所蔵）

（3）平成30（2018）年度

幕府関係史料

老中日記類の調査

首都大学東京図書情報センター（東京都）

「老中借写日記」

大名家史料

酒井雅楽頭家関係史料

前橋市立図書館（群馬県）

松平定信関係史料

天理大学附属天理図書館（奈良県）

○一橋家関係史料

茨城県立歴史館（茨城県）

将軍側近関係史料

○柳沢家関係史料

大和郡山市教育委員会（奈良県）

松平信明関係史料

豊橋市美術博物館（愛知県）

（4）平成31（2019）年度（令和元年度）

大名家史料

酒井雅楽頭家関係史料

姫路市立城郭研究室（兵庫県）前橋市立図書館（群馬県）

松平定信関係史料

天理大学附属天理図書館（奈良県）

○結城水野家関係史料

茨城県立歴史館（茨城県）

○福山藩主水野家関係史料

福山城博物館（広島県）

將軍側近関係史料

松平信明関係史料

豊橋市美術博物館（愛知県）

（５）令和２（２０２０）年度：コロナの影響で延長した期間

コロナのため、出張調査は実施できず、（１）で提示した活字史料の分析をおこなった。

４．研究成果

（１）江戸時代後期（９代將軍徳川家重政権期以降）の將軍側近と幕府官僚の関係の分析

江戸時代後期については、特に１０代家治・１１代家斉の時期の水野忠友、水野忠成に注目した。老中兼側用人という「表向」と「奥向」の両方の権力を握る、つまり幕府官僚でありながら將軍側近である、という権力の在り方を明らかにし、『名門水野家の復活 御曹司と婿養子が紡いだ１００年』（新潮社、２０１８年）を執筆、刊行した。

ほかに、水野忠成が老中を務めていた時代に、忠成を感心させ、平戸藩主松浦静山の『甲子夜話』でも当時の三人の名家老「三助」の一人としても記されている、酒井雅楽頭家の家老河合隼之助の幕府対策を分析した論考「名門・酒井雅楽頭を再興した凄腕家老」が、文芸春秋編『日本史の新常識』（文芸春秋、２０１８年）に掲載された。

（２）江戸時代中期の將軍側近と幕府官僚の関係の分析

中期については、研究成果を自治体の企画で紹介する機会にも恵まれた。２０１８年９月２４日には、群馬県前橋市の主催した、第６回前橋四公教養講座（場所：酒井雅楽頭家菩提寺・龍海院本堂）で、「前橋藩主 酒井忠挙 御曹司の挫折とプライド」という演題で講演した。５代將軍徳川綱吉政権期に、父忠清の失脚により、自らも政治の第一線を離れることになった、前橋藩主酒井忠挙の御家再興への奮闘ぶり、その矜持について読み解いた。この御家再興運動へは、姻戚でもある將軍側近柳沢吉保が関わっている。また、山梨県甲府市のこうふ開府５００年記念事業実行委員会主催の「こうふ開府５００年記念事業リレーフォーラム２０１８ 近世（１２月２２日）」において、基調講演「柳沢吉保とその時代」を行い、柳沢家にゆかりのある自治体の首長（山梨県北杜市・甲府市、埼玉県川越市、東京都文京区、奈良県大和郡山市）とともにパネルディスカッション「柳沢氏が築いた歴史と文化 ～各地に残る足跡～」のパネリストを務めた。２０１９年１０月２６日に川越市立博物館において、川越文化財保護協会主催の文化財講座で「柳沢吉保 その実像と宿命」との演題で講演した。

加えて、２０１９年１月１５日、東京工業大学でおこなわれた科学史・技術史・科学技術社会論（STS）研究会にて、「悪役のつくられ方 柳沢吉保を中心に」との論題で、研究報告を行った。

ほかに、学術論文、著書の成果としては、継続して続けてきた姫路市立城郭研究室と前橋市立図書館での酒井雅楽頭家関係史料の調査の成果を反映した、学術論文「大奥御年寄の養子縁組 綱吉政権期の御年寄松枝をめぐって」が、幕藩研究会編『論集 近世国家と幕府・藩』（岩田書院、２０１９年）に掲載された。

また、２０１９年の福山城博物館での福山藩主水野家関係史料の調査の成果は、水野家と酒井雅楽頭家との関係性を論じた「補論 酒井忠挙の妹・長姫の憂鬱」の中に反映され、本論文は２０２０年刊行の『名門譜代大名・酒井忠挙の奮闘』（文春学芸ライブラリー 歴３８、文芸春秋、２００９年刊行角川叢書の増補・改訂版）の中に掲載された。

（３）総括と今後の展望

本研究は、これまでの江戸時代を通しての將軍側近研究の集大成を目的とした時間軸に沿った縦糸の研究から徳川幕府の政治権力を明らかにしたものである。それに対し今後は、それぞれの時期を人間関係の点からより深く掘り下げる、いわば横糸を編み、その細部に迫りたい。人的ネットワークを解き明かし、政治構造、政治権力の研究を深化させることを目的とする。

具体的には、幕閣の人物像を考える上での史料が特に豊富である５代綱吉政権期と１０代家治・１１代家斉政権期に注目し、分析する。

一部、具体例を挙げると、５代綱吉政権期について、茨城県立歴史館所蔵の結城水野家の史料には、綱吉の寵臣と言われ、正室は柳沢吉保の養女であり、享保期には西丸老中まで進むことになる黒田直邦から、同じく寵臣とされる水野勝長宛ての３０通余りの書状が所蔵されており、江戸城の「奥」の実態を分析することができる。また、１０代家治・１１代家斉政権期については、

松平定信が近習番の水野為長に情報を集めさせたという「よしの冊子」や定信自身の自叙伝「宇下人言」に、当時の側近たちが登場するのはもちろんのこと、幕府や諸藩の記録まで見ることができる定信の家老服部半蔵の書き残した随筆「世世之姿」をはじめ、同じころ老中を務めた松平信明の書簡や藩士が著した伝記「嵩岳君言行録」も現存している。信明は、嫡男や正室宛ての書状が多数あり、その人間像に迫ることができる。

これらの史料を分析し、将軍側近と幕府官僚の人物像だけでなく、彼らを取り巻く人間関係を詳細に分析することにより、特に綱吉政権期と、田沼時代・寛政の改革の時期を含む、10代家治・11代家斉政権期という、幕府政治が大きな転換期を迎えた時代について、新しい見方を示すことができると考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計4件

1. 著者名 福留真紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 443 (pp.219 ~ pp.240)
3. 書名 「大奥御年寄の養子縁組 網吉政権期の御年寄松枝をめぐって」(幕藩研究会編『論集 近世国家と幕府・藩』)	

1. 著者名 福留真紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文藝春秋	5. 総ページ数 303
3. 書名 名門譜代大名・酒井忠拳の奮闘	

1. 著者名 福留真紀	4. 発行年 2018年
2. 出版社 文藝春秋	5. 総ページ数 8 (240)
3. 書名 「名門・酒井雅楽頭を再興した凄腕家老」(文芸春秋編『日本史の新常識』)	

1. 著者名 福留真紀	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 207
3. 書名 名門水野家の復活 御曹司と婿養子が紡いだ100年	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------